

## おわりに

国際学力調査(PISA2009)の結果では、日本の子どもたちの学力は回復の兆しにあるという見方があります。一方では、停滞しているとも聞きます。学力向上を目指し授業改善や授業量を増やすなど各学校で取り組んできた結果については評価が分かれているところですが、いずれにしても学力向上は喫緊の課題です。

学力が十分に伸びない原因を、東海大教育開発研究所の秋山仁所長は、「子どもたちに勉強の習慣がない。努力を好まないという生活習慣が問題だ」と指摘しています。確かに、全国学力・学習状況調査における上位の都道府県の傾向を尋ねると、家庭学習の習慣が身に付いている子どもの割合が高いそうです。さらに、勉強の習慣を付けるだけではなく、「『なぜ?』『どうして?』と思う疑問やテーマについて自分で考え、自分の頭で納得できる結論を得るという実感を抱かせることが重要」とも指摘しています。

本校の子どもたちにおいても、研究の出発点では「家庭学習の習慣が十分でない」「自分で考え、解決するという経験が不足している」という実態が垣間見えました。そこで、これまで「どうしたら自分で考え、解決するという授業構成ができるのか」「どうしたら言語活動の充実が図れるのか」「家庭学習の習慣化と連動した取組はできないか」「学び合いのある授業とは何か」ということを全職員一丸となって、追い求めてきました。授業実践を重ね、多くの講師の先生方からアドバイスをいただきながらも試行錯誤の日々が続きました。その中で、私たちは子どもたちの考えの根拠に注目しました。そして、子どもたちの意見、理由、根拠をしっかりと整理していきながら言語活動を仕組んでいくことが、学び合いへとつながると見えてきたところです。

本日の発表は、まだまだ研究の緒に就いたものばかりで、ご参会の先生方の参考になるまでに至っていないところも多くありますが、忌憚のないご意見ご指導をいただき、さらに精進して参りたいと存じます。

最後になりましたが、玉名町小学校が開校以来絶えることなく保護者や地域の方々からご協力とご支援をいただき、河野順子先生をはじめとする多くの研究者の方々からご指導いただき、さらに熊本県教育委員会、玉名教育事務所、玉名市教育委員会より温かいご支援をいただいていることに心から感謝申し上げます、おわりの言葉とさせていただきます。

平成25年11月28日

玉名市立玉名町小学校 教頭 前田 洋志

### 【 研究 同 人 】

#### 《平成25年度職員》

松尾 隆彦, 前田 洋志, 池田 健一, 橋本 敏子, 福島 イチ子, 杉本 一義, 阪本 幸雄, 竹下 純子, 坂梨 廣人, 山下 邦子, 村上 仁美, 竹下 和宏, 小柳 美穂子, 島田 真美, 前田 昭則, 土田 幸生, 小田 博臣, 福永 光子, 吉川 裕美, 足立 佳代, 菊池 博史, 松本 潤一, 岩本 龍二, 西村 勝, 福田 友子, 上原 正士, 佐藤 実紗, 林田 将吾, 榮 有希子, 北野 裕人, 久間 由紀, 和久田 真樹, 岩田 雪子, 久保田 洋子, 山本 采香, 多田 隈 智子, 太田 博子, 塚越 光太郎, 青山 教子, 中島 真由美, 山内 美夏

#### 《平成24年度職員》

鬼塚 宏光, 阿蘇品 ゆかり, 浜崎 由香, 坂梨 壽子, 北川 里恵, 福田 眞奈美

#### 参考文献

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社, 2009
- 2) 河野順子編『言語活動を支える論理的思考力・表現力の育成—小・中にわたる話し合いを深めるための「根拠」「理由付け」「主張」の三点セットによる発達系統案と実践提案—』平成24年度新学習指導要領シンポジウム国語分科会